



2020年11月

Vol. 22

発行 日本福音キリスト教会連合
宗教法人 湘南ライフタウンキリスト教会
〒252-0816 藤沢市藤森398-4
TEL 0466 (87) 3245
<http://slcc.sakura.ne.jp/wp/>



SLCC だより

Shonan Lifetown Christ Church

『この卑しいはしのために目を留めてくださったからです。』(新約聖書ルカの福音書 1 章 48 節)

『イエスさまは、どこで生まれたの?』

街にイルミネーションが点灯し、もうすぐクリスマスです。しかし、今年はコロナ禍による自粛で、静かにクリスマスをお過ごしされるのもいいのかもしれませんが。

クリスマスは、救い主イエス・キリストのお誕生をお祝いする日です。そのイエスさまも、静かな夕べにお生まれになりました。絵本などでは、イエスさまが馬小屋で誕生されたと描かれています。何故なのでしょう。聖書によれば、「**マリアは月が満ちて、男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。**」(ルカ 2 : 6・7) とあります。「飼葉桶」とは家畜の餌箱です。ここから、イエスさまが馬小屋で生まれたとされたのでしょう。しかし、そこを馬小屋と限定することは難しいでしょう。それでも家畜小屋であることは間違いないでしょう。何故、イエスさまは家畜小屋で生まれたのでしょうか。両親が貧しく、家畜小屋で生活していたのでしょうか。そうではありません。聖書の続きには「**宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。**」(ルカ 2 : 7) とあります。マリアと夫ヨセフは宿屋に泊まろうとしていましたが、どの宿屋も一杯で泊まれる部屋がなかったのです。この時、「住民登録をせよ」とのローマ皇帝アウグストゥスの勅令で、大勢の人々がベツレヘムの町にやってきました。お腹の大きなマリアは、ゆっくりと旅をしてきましたので、宿屋は既に満員でした。ふたりは、泊まれるところはないか、宿屋を一軒ずつ訪ね歩いたと思われます。宿屋の主人の中には、マリアの大きなお腹を見て気の毒に思った人もいたかもしれません。しかし、宿屋はどこも満員で接客に追われ、マリアに構

ってられなかったのでしょうか。仕方なく、ふたりは、家畜小屋に身を寄せたと思われます。ところが、その夜に救い主イエスさまがお生まれになりました。

何故このタイミングで生まれたのでしょうか。イエスさまが、まことの神の子、救い主であれば、立派なお屋敷を選んで生まれてもよかったと思われます。ところが、みすぼらしい家畜小屋でした。それは、神さまが、この世で小さいと思われている人たちに目を注がれているからです。イエスさまが生まれたとき、最初にお祝いに駆けつけたのは、野宿で夜番をしていた羊飼いたちでした。他の人たちは住民登録のためにベツレヘムの町に行っていましたが、この羊飼いたちは夜も寝ずに仕事をしていました。もしかすると住民登録をする資格のない、身分の低い人たちだったと思われます。イエスさまが立派なお屋敷で生まれていたら、この羊飼いたちはお祝いに駆けつけることができなかったでしょう。ところが、イエスさまが家畜小屋で生まれたので、そのお祝いに駆けつけ、お会いすることができました。神さまは、救い主イエスさまの誕生をこの小さいと思われている人たちと一緒に祝いしたかったのです。

反対に、イエスさまのお誕生という素晴らしい機会を失った方々がいました。それは宿屋の主人たちでした。彼らは接客という仕事に追われ、せつかくの機会を逃してしまったのです。

今年のクリスマスは、手を休めて、小さい者に目を留められる神さまがおられる教会に来てみませんか。

湘南ライフタウンキリスト教会
牧師 菅野淳一